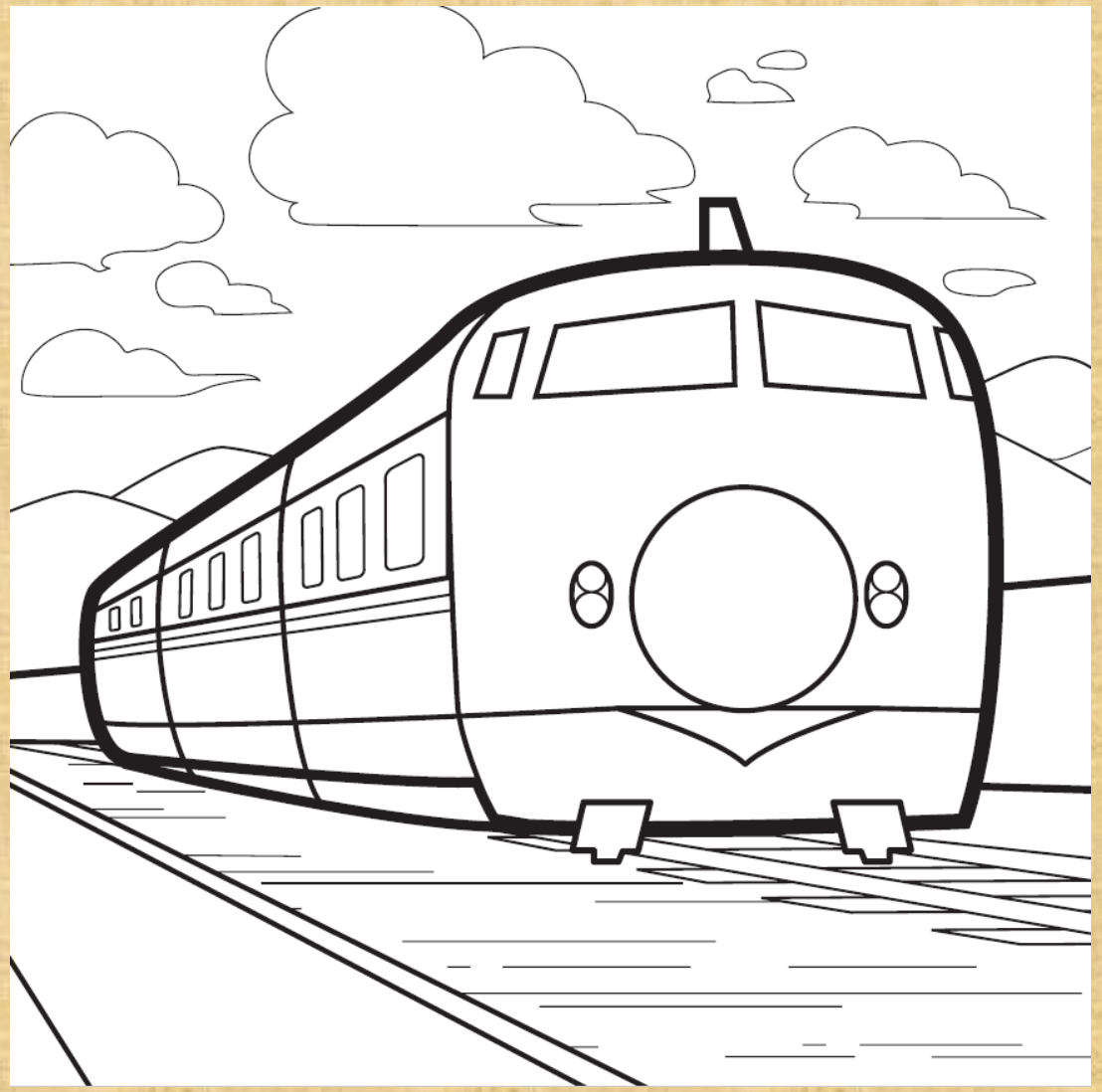


なまえ

0系新幹線電車

1964年10月に誕生した、日本で最初の新幹線。
世界で初めて、時速200kmの速さで
お客さんを乗せて運転しました。
みんなのあこがれ！「夢の超特急」とも
呼ばれて愛されました。

どんな色の新幹線なんだろう？
想像してぬってみよう！

京都鉄道博物館
kyoto railway museum

ウメテツ
© Kyoto Railway Museum 2015

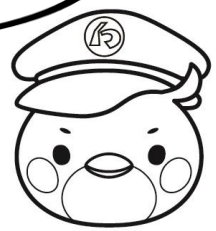
なまえ

500系新幹線電車

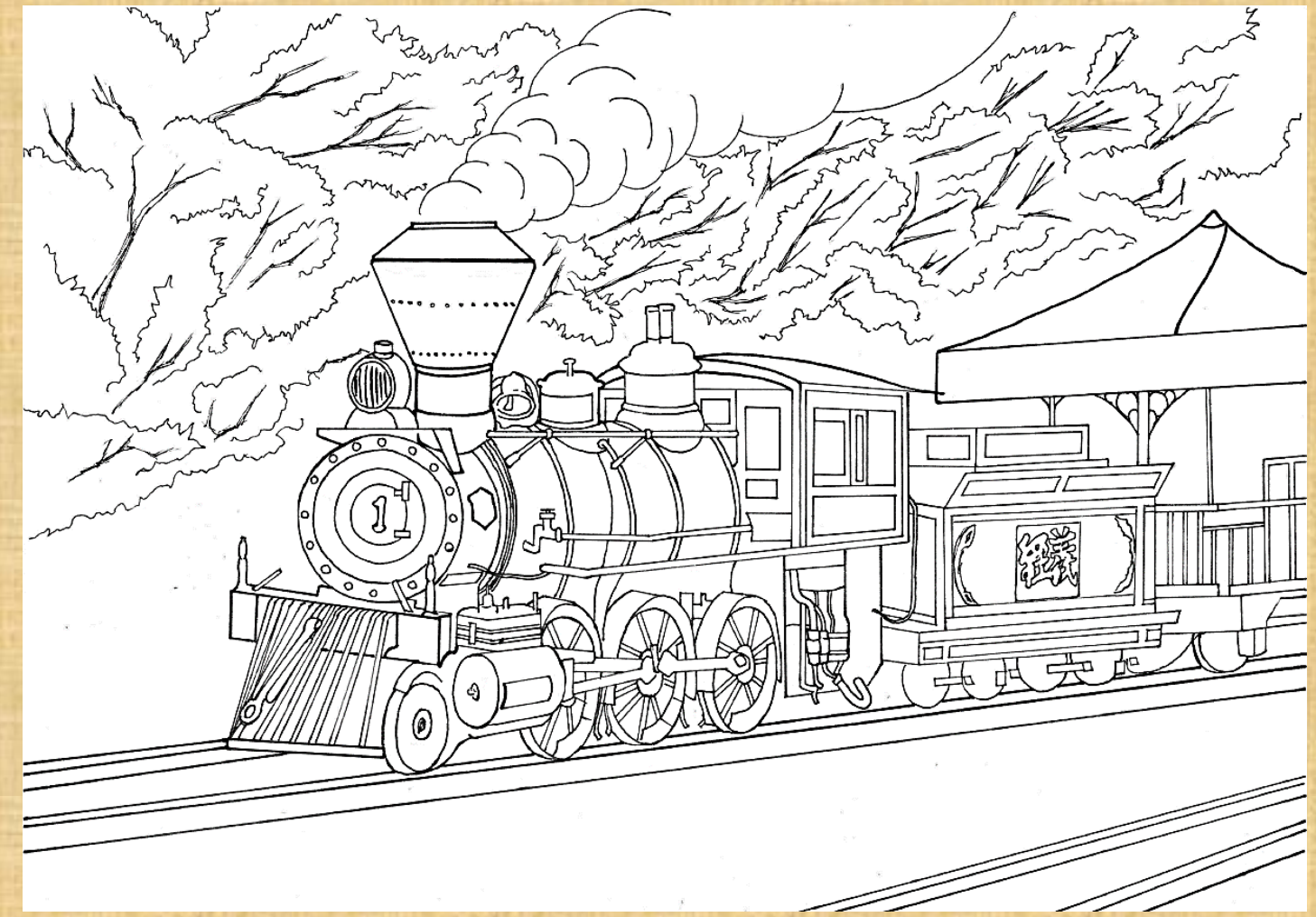
日本で初めて、時速300kmでお客さんを
乗せて運転した新幹線。
車両の先の部分は、カワセミという鳥の
くちばしの形をヒントにしています。
この形にすることで
速く静かに走ることができるようになったよ！

どんな色の新幹線なんだろう？
想像してぬってみよう！

京都鉄道博物館
kyoto railway museum



© Kyoto Railway Museum 2015



なまえ

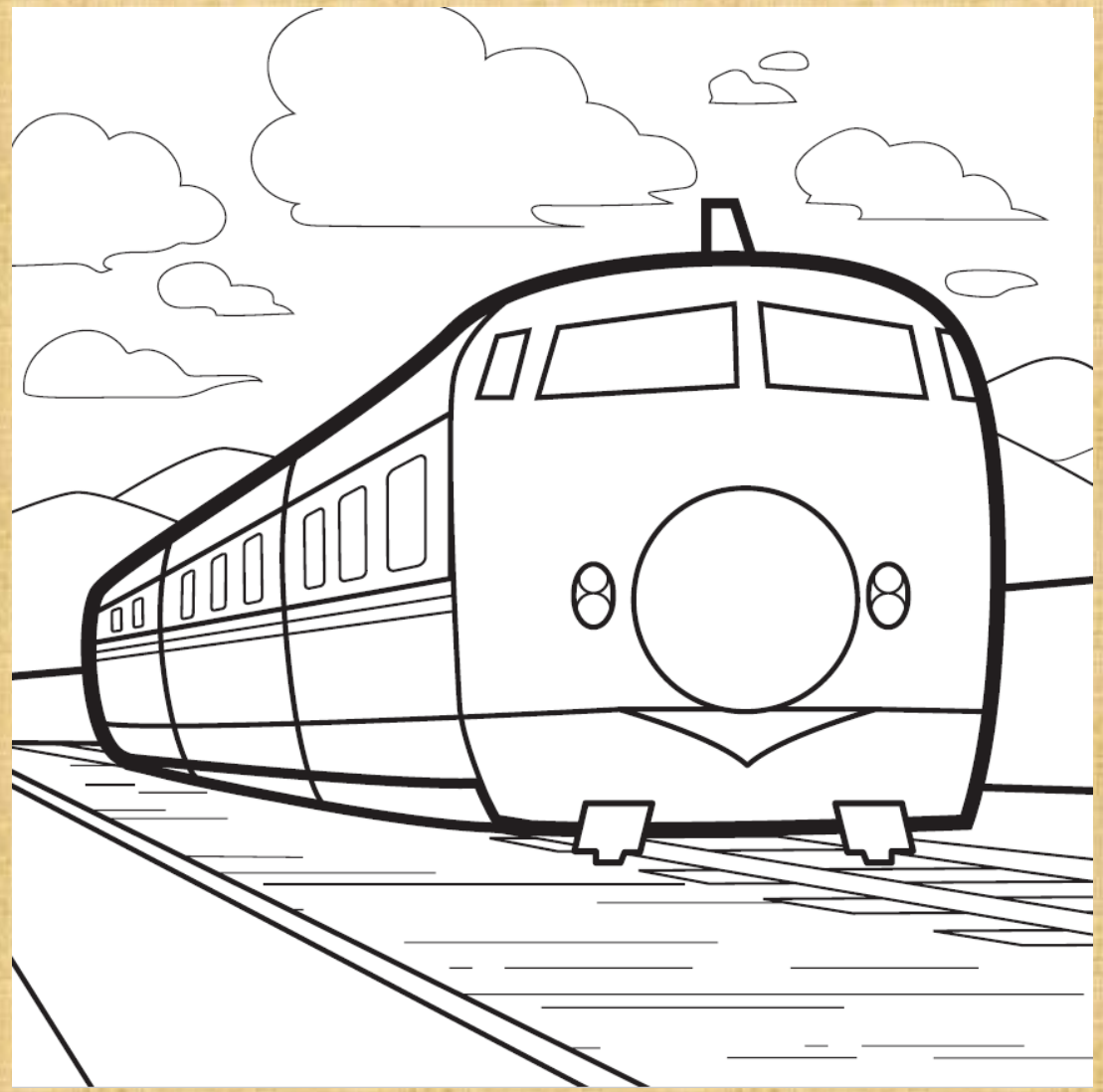
7100形蒸気機関車

アメリカからやってきた蒸気機関車。
車両の前、下の方には
「カウキャッチャー」という
牛をよけるための部品がついています。
京都鉄道博物館の7105号機には
「義経」という名前が付けられているよ。

どんな色の蒸気機関車なんだろう？
想像してぬってみよう！

京都鉄道博物館
kyoto railway museum

ウメテツ
© Kyoto Railway Museum 2015



なまえ

0けい
しんかんせんでんしゃ

にほん で さいしょ に できた
しんかんせん！
「ゆめ の ちょうとっきゅう」
と よばれたよ。

どんな いろ かな？
ぬってみよう！

きょうと てつどう はくぶつかん
京都鉄道博物館
kyoto railway museum

ウメテツ
© Kyoto Railway Museum 2015

なまえ

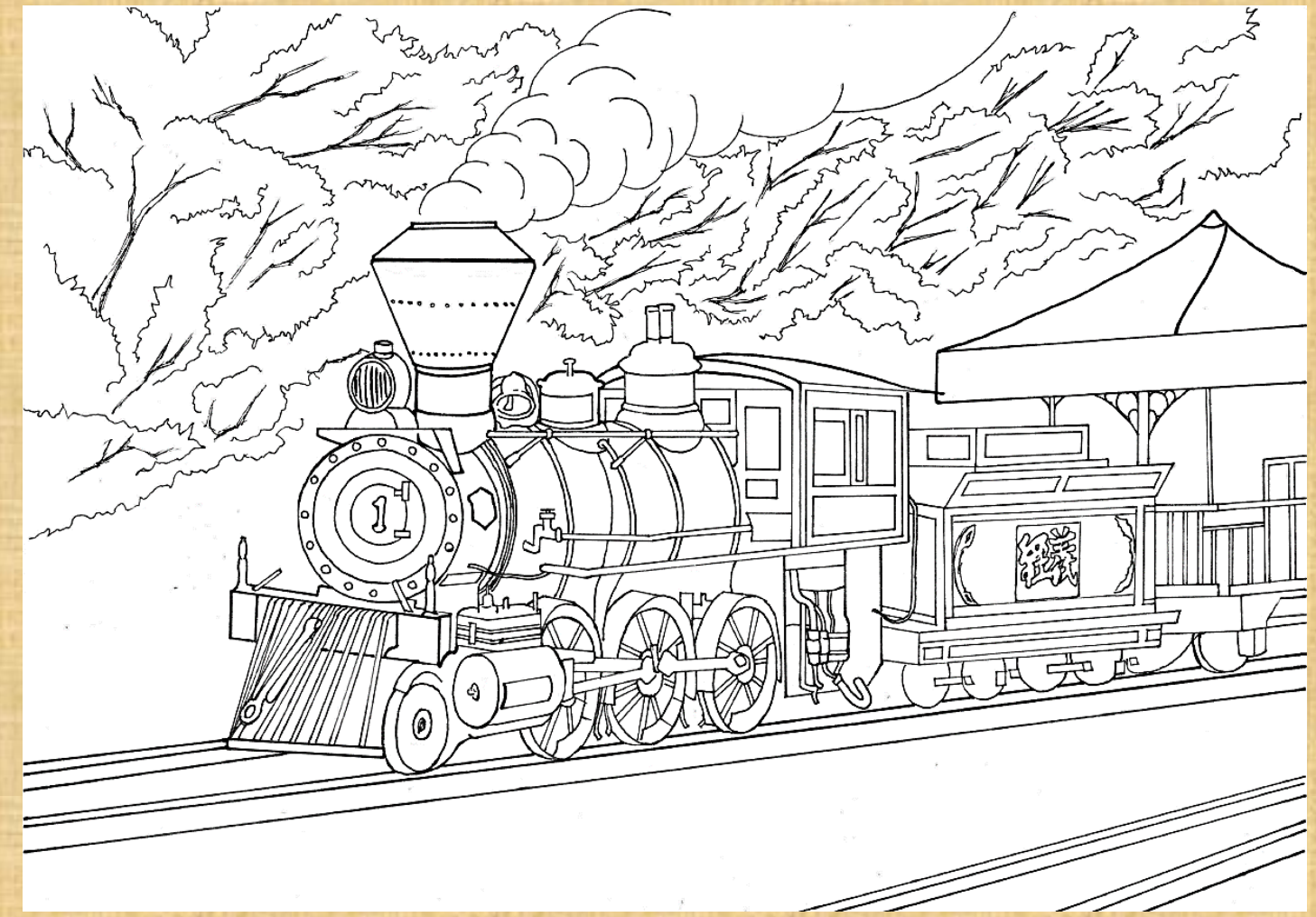
500けい
しんかんせんでんしゃ

とっても はやいぞ！
500けい しんかんせん！
とがった おはな が
とり の くちばし に にているよ。

どんな いろ かな？
ぬってみよう！

きょうと てつどう はくぶつかん
京都鉄道博物館
kyoto railway museum

ウメテツ
© Kyoto Railway Museum 2015



なまえ

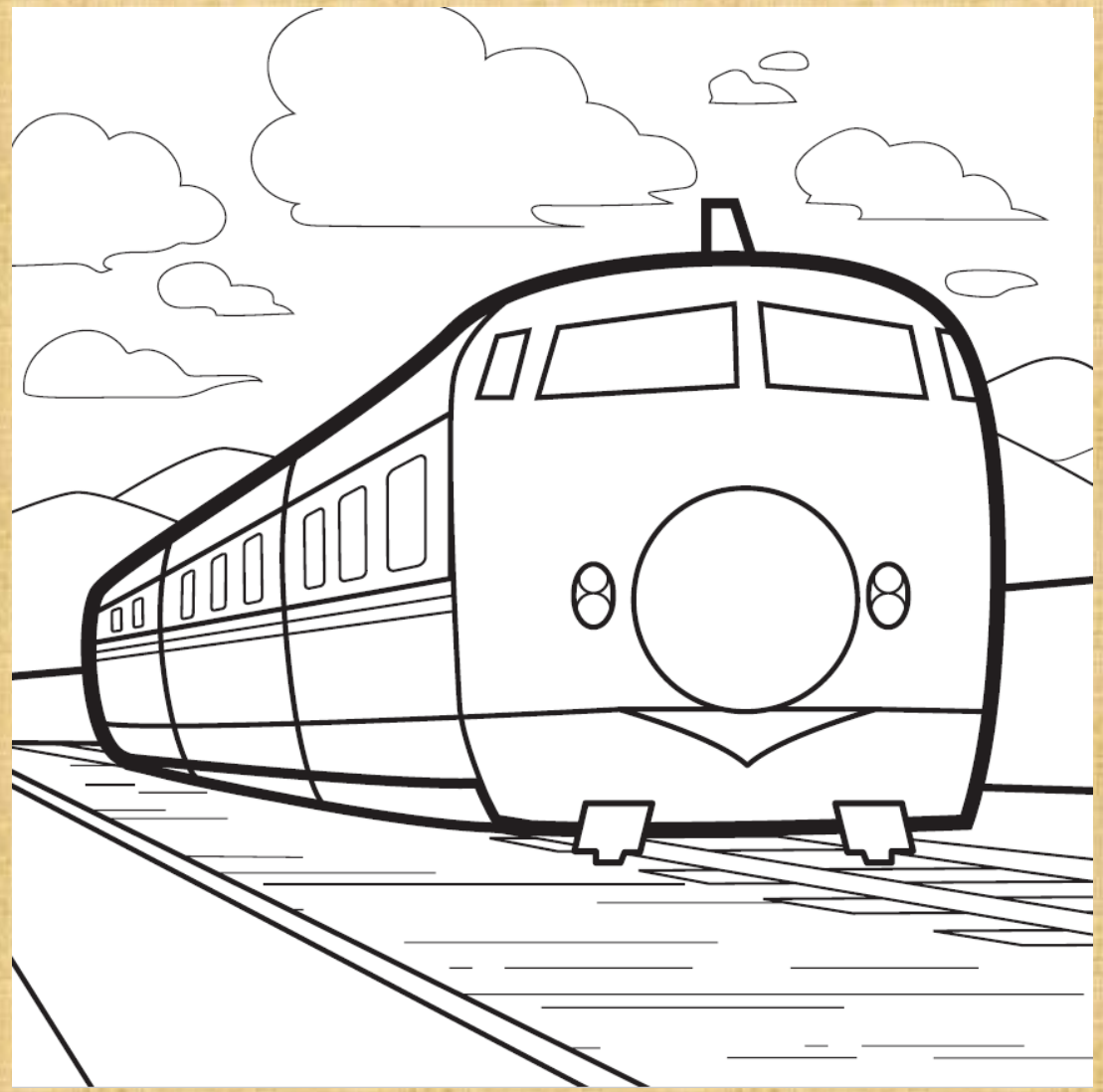
7100 がた
じょうき きかんしゃ

あめりか から やってきた
じょうき きかんしゃ。
なまえは「よしつね」！
けむり を だしながら
ぽっぽっぽ！ と はしっていくよ。

どんな いろ かな？
ぬってみよう！

きょうと てつどう はくぶつかん
京都鉄道博物館
kyoto railway museum

ウメテツ
© Kyoto Railway Museum 2015



なまえ

0けい
しんかんせんでんしゃ

どんないろかな？ぬってみよう！

なにににてるかな？
おともだちとはなしてみよう！

かんそう

きょうとてつどうはくぶつかん
京都鉄道博物館
kyoto railway museum

なまえ

500けい
しんかんせんでんしゃ

どんな いろ かな？ ぬってみよう！

なに に にてるかな？
おともだち と はなして みよう！

かんそう

きょうと てつ どう はく ぶつ かん
京都鉄道博物館
kyoto railway museum

先生方向け資料

【名称】
０系新幹線電車

【車両について】
・日本で初めて誕生した新幹線。
・1964（昭和39）年に東海道新幹線
（東京ー新大阪間）の開業に合わせて登場。
・2008年（平成20）年に引退するまで、
44年間活躍した。
・世界で初めて時速200kmで営業運転を行った。

【見どころポイント】
・先頭車の丸い形状。「団子鼻」とも呼ばれた。
・今の新幹線と比較して、全体的に車体が丸く、
当時の「流線形」として知られていた。
英語では「弾丸列車（Bullet Train）」と
表記されていた。
・白地に青帯のカラーリング。
これぞ新幹線というイメージを定着させた。

【展示場所】
プロムナード（博物館に入館してすぐ）

先生方向け資料

【名称】
500系新幹線電車

【車両について】
・日本で初めて時速300kmで営業運転を行った。
・JR西日本が開発した車両のため、
それまでの新幹線のイメージ（白地に青など）と
異なる形と色が採用されている。
・1997（平成９）年に、山陽新幹線（新大阪ー
博多間）の「のぞみ」としてデビュー。

【見どころポイント】
・先頭車のとがった形状。
「ロングノーズ」と呼ばれている。
全長約27mのうち約15mは鼻部分になっている。
カワセミのくちばしからヒントを得て設計。
・運転席（黒い部分）の形。
航空機のコックピットのようになっている。
・車体の断面が円形になっている。
車体を後ろから見てみると形がよくわかる。
・高速走行のため、航空機に似た形状が
採用されている。

【展示場所】
本館１階（建物入ってすぐ）

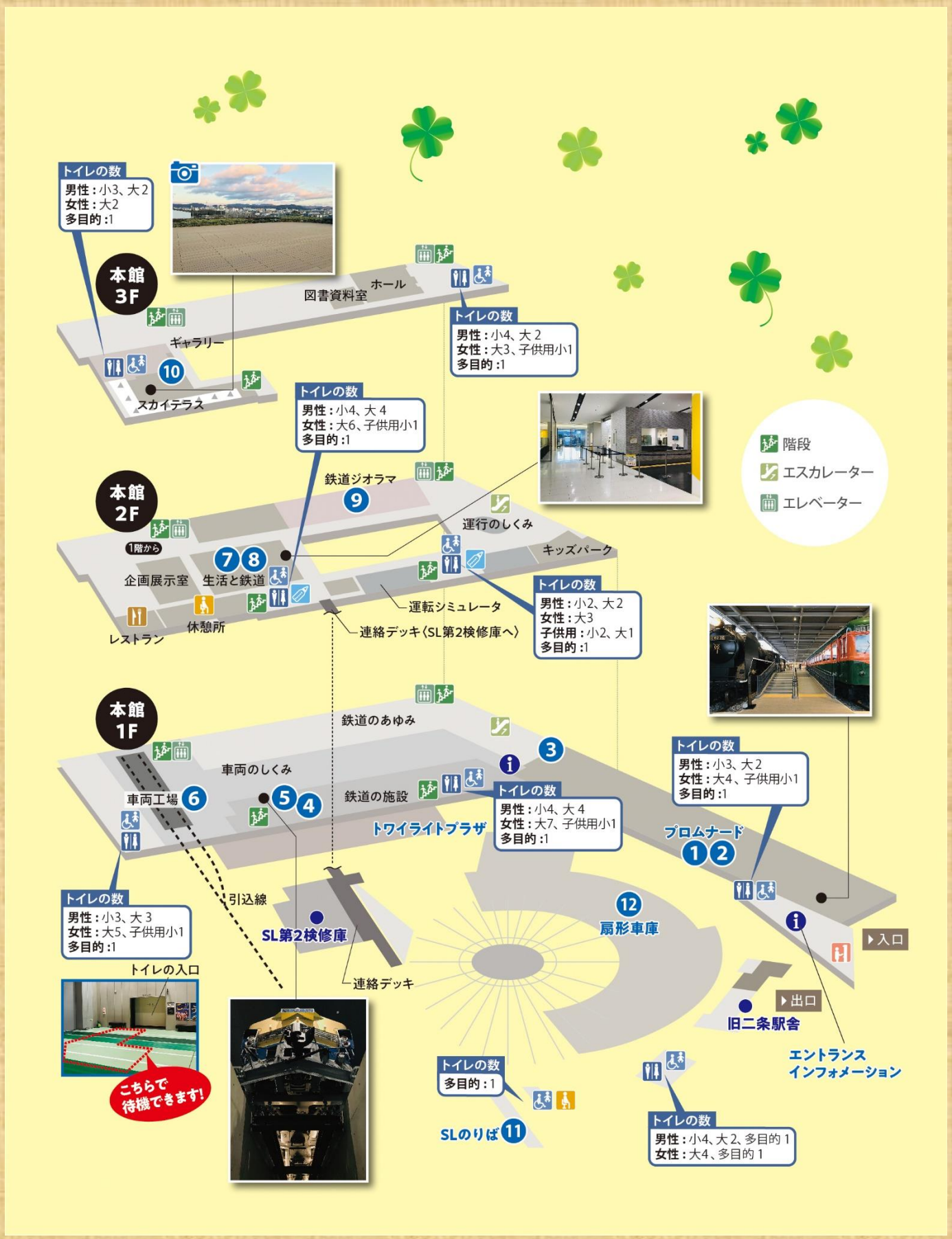
先生方向け資料

【名称】
7100形7105号機、愛称「義経」

【車両について】
・アメリカで製造された蒸気機関車を、
1952（昭和27）年に原形に復元した。
・1880（明治13）年に北海道の鉄道会社が輸入し、
「義経」と命名された。
・アメリカンスタイルの蒸気機関車のため、
扇形車庫にある他の国産蒸気機関車と比べ、
車両の形が異なる。

【見どころポイント】
・車両の前にある柵状の「カウキャッチャー」。
牛が正面衝突しないように付けられた。
・煙突の先が膨らんだ形「ダイヤモンドスタック」。
火の粉が飛び散らないように工夫された。
・煙突の後ろにつけられた鐘。放牧されている
牛などに危険を知らせるために付けられた。

【展示場所】
扇形車庫



京都鉄道博物館の
館内フロアマップです。
印刷してご利用ください。

番号の順番に見学すると
一筆書きで館内を
見ることができます。

©Kyoto Railway Museum 2015